



社説

『平疑原（おぎはら）神社の梵鐘』

平成27年（2015）12月12日、姫路から花田のインターに入らず、その下県道 372号線を走りました。道沿いの美味しいお酒『富久錦』を造る古い酒蔵を見ながら東へ、北条鉄道の踏切を越え満願寺川を渡りました。普光寺（ふこうじ）川の手前の細い道を北上します。少し行くと小高い丘が見えました。この丘の上にあるに違いないと思い坂道を上ると『百代寺』の石碑。あれ間違ったかなと思いながら上に登ると道の左に鐘楼が見えて来ました。15 km 程の道のりでしたが、やっと到着しました。

梵鐘を見せて頂きます、と山本安彦宮司さんに挨拶。鐘楼で梵鐘を見たあと、再度社務所により、梵鐘について話を聞きました。宮司さんは梵鐘の銘文を筆写され、それを見せて頂きました。そして、ここに書かれている『播州 増位山願主 同山 曼荼羅院快聖』のことを調査したが判らなかつたと教えて頂きました。

この梵鐘は、天文13年（1544）野里の鋳物師、田中次郎兵衛が増位山随願寺（ずいがんじ）曼荼羅院のために作った梵鐘で、永禄 5年（1562年）にこの神社へ来ました。この梵鐘は加西市指定文化財です。

梵鐘総高さ 122 cm 口径 57.5 cm 駒の爪厚さ 9.5 cm
銘文は池の間二区に陰刻



鐘楼 三山形の竜頭



梵鐘の銘文

播州 増位山 願主 同山 曼荼羅院快聖
右為師快孝禪師并 慈母妙音慈父永照禪門
追福開十方檀門所奉鑄也
以修善功所奉擬二親師匠
乃至十方施主現当二世悉地
成就之旨件如
天文十三年 申辰 二月二十四日
大工野里村治郎兵衛 藤原 吉定
播州賀西郡河合郷 惣社天神宮為氏子
造立所願成就也
永禄五年八月上旬 敬白

曼荼羅院快慶讓状
ゆつり渡申自名分本給主分事
合 政所 二名者
合 売場者 但タワラ七村
右、野里村八郎兵衛先祖代々雖相拘置、依有要用、令買
德、同村五郎衛門ゆつり渡申所実也、对我等 弟子二
於致如在者、何時も召放、別人可申付候、売主より両通
支証相そへ渡置所如件、
万陀羅院 快慶(花押)
天文十三^曆年十一月二日
(累筆)
「五郎衛門方へゆつり渡申所実也、」

讓状

鋳物師調査中たまたま、芥田家文書の中に『曼荼羅院が所有していた田原荘にある7村売場の讓状を』見つけました。（画像右上）

ちなみに、増位山随願寺は中世末期には多くの衆徒を抱え、多数の坊舎が立ち並ぶ大寺院でしたが、天正元年（1573年）に三木の別所長治に攻められ全山焼失しました。曼荼羅院もこの時焼失したのでしょうか。随願寺は天正14年（1586年）旧地に再興され、今の本堂は、寛文6年（1666年）姫路藩主榊原忠次によって再建されたもので、堂内には狩野探幽作の天井画が残っています。



増位山随願寺